

# 態度数量化の一方法 II の訂正

林 知 己 夫  
高 倉 節 子

(1960年6月受付)

## Errata on "One Method of Quantification of Attitude II", Vol. 6, No. 1, of this Proceedings

Chikio HAYASHI and Setsuko TAKAKURA

1. 6p. line 12-13, Omit「この係数……寸法をそろえるため」  
6p. line 14, Omit ( $\lambda \neq 1$ )
2. To line 3 in 10p. from line 10 in 9p., you should read as below.
3. To line 6 in 11p. from line 22 in 10p., you should read as below.

Institute of Statistical Mathematics

統計数理研究所彙報第6巻, 第1号にあげた態度数量化の一方法 II において計算に誤った箇所があるので, §2, §3 のように訂正する.

§1. 6頁12行目の「この係数……」から13行目の「 $\approx 0$ , 全体の寸法をそろえるため」までを削除. 14行目の ( $\lambda \neq 1$ ) を削除.

§2. 9頁10行目から10頁3行目まで次のようにあらためる.

第一に自一自群についてみよう. まず全体をこの方式でやると, (党内派閥争いが少く安定) が, とびはなれ, むすびつきの上で特異な傾向を示す. それでこれを除いてやってみるとあとは次のようになる. 特に理由の距離の近いものは括弧内で括るのであるが, 理由で位置の近いものは質が近いものとみてよかろう. (私服を肥やさない), (外交政策がよい), (わからぬ), (われわれの立場や利益を守る, 政党の力があり頼りになる, 各種の面で偏らず, 穏健, 主義がよい, 理屈なく感情的に好き), (国内政策がよい, 頼りになる人物がいる), (政策が現実的), ということになる.

社一社についてみると, まず(わからぬ)が特異な形となり, これをのぞくと次に(各種の面で偏らず穏健)がはづれる. これをのぞいてみると(党内で派閥争いが少く安定), (主義がよい), (われわれの立場や利益を守る, 理屈なく感情的に好き, 私腹を肥やさない), (外交政策がよい, 頼りになる人物がいる, 国内の政策がよい), (政策が現実的), (政党の力があり頼りになる), ということになる. 中央にはいづれにもうごきうるものがきている. 端と端とは結びつき難いことになっている. 数値を示せば右の通りになる.

しかし, いづれにしてもあまり強い理由の関係はみられ

自一自群 (6を除く)                      社一社群 (DK及び7を除く)

コード	$x_i$	コード	$x_i$
11	2.92	6	2.87
3	0.62	1	0.08
DK	0.30	4	-0.08
4	-0.34	8	-0.14
5	-0.36	11	-0.18
7	-0.38	3	-0.28
1	-0.44	10	-0.33
8	-0.44	2	-0.34
2	-0.54	9	-0.57
10	-0.59	5	-1.03
9	-0.76		

ず、理由全体としては、特異なもの、両端のものを除き総括的には、頻度の上から見ると、曖昧なものである——表現のあや——といったことが言われるように思われる。

§3. 10 頁 22 行目から 11 頁 6 行目まで次のようにあらためる。

まず自一自群についてみると、(理屈なく感情的に好き)、(頼りになる人物がいる)、(わからぬ)、(政策が現実的)、(政党の力があり頼りになる、各種の面で偏らず穏健、外交政策がよい、われわれの立場や利益を守る、私腹をこやさない)、(党内で派閥が少く安定、主義がよい)、(国内の政策がよい)となる。両極の方に(理屈なく感情的に好き)、(主義がよい)のようなものがきて、結びつきの点で弱いことが示され、中央には大体紋切型が来ているように思える。このようなことは首肯できる。社一社群についてみると、(私腹を肥やさない)、(理屈なく感情的に好き)、(国内の政策がよい)、(各種の面で偏らず穏健)、(われわれの立場や利益を守る、政策が現実的、頼りになる人物がいる)、(わからぬ)、(政党の力があり頼りになる)、(外交政策がよい)、(主義がよい、党内で派閥争いが少く安定)となってくる。

むすびつきの模様は自一自群と社一社群では異っているが、主義がよいと理屈なく感情的がともにはなれているのは面白い。社一社群の(われわれの立場や利益を守る)と言う紋切型が中央にあり、いづれとも結びつき得る位置にあるのは注目される。

いづれにしても 18 頁に見られるように、われわれが言葉の上で「理由群」をつくったものとは大分趣きが異っている。つまりわれわれの主観にもとづくものと人々の考えの姿とはこの意味で、異っているものとみてよからう。

統計数理研究所

自一自群		社一社群	
コード	$x_i$	コード	$x_i$
8	+3.09	11	+1.58
10	+0.52	8	+0.88
DK	+0.00	2	+0.66
9	-0.12	7	+0.40
5	-0.21	4	+0.21
7	-0.22	9	+0.21
3	-0.27	10	+0.19
4	-0.29	DK	+0.07
11	-0.35	5	+0.01
6	-0.51	3	-0.24
1	-0.53	1	-1.91
2	-1.11	6	-2.07